

指導の形態	日常生活の指導「髪や身体を洗う」 自立活動・日常生活の指導「ボタン留め」	障がい種等	特別支援学級 知的障がい
--------------	---	--------------	-----------------

授業の概要やよさ

- ・細かいステップを組んで、「髪や身体を洗う」「ボタン留め」に取り組んだ事例。
- ・A児の事例は、書かせる活動や自分で判断する活動を取り入れている。
- ・B児の事例は、生活につながるように段階的な指導を行っている。

児童生徒の様子

- A児：小学校4年**
- ・「〇〇くん、家で髪を洗う様子を教えて」という質問に対して、髪の毛を洗う動きをするが、同じところを何度も洗う様子が見られる。
 - ・「体を洗うのは？」の質問には、手で体をこする動きをするが、腕だけをこすって「終わり」と言う。
- B児：中学校3年**
- ・指を使った細かい作業が苦手なため、制服のボタンをマジックテープに替え、着脱しやすいようにしている。

目標

- A児（髪や身体を洗う）**
- ・宿泊学習で手順カードを見ながら体や髪の毛を洗うことができる。
- B児（ボタンを留める）**
- ・カーディガン等、ボタンのついた服の着脱ができる。

支援のポイント

- A児…以下の手順で指導を行う。**
- ①手順カードをみて流れを知る…絵カードを見せ「何をしているところ？」と一枚ずつ確認し、絵と同じ動きをしてもらいながら動作を書く。
 - ②タオルを持ち、カードと同じ動きを順番におさえる…マットの上にお風呂場を設定し、1枚ずつめくりながら洗う箇所の確認をしてタオルでこする。
 - ③カードを見ながら1人で動作をする。



- B児…以下の手順で指導を行う。** ステップ1. 2は、留めはずしの技能を獲得するために自立活動の時間で指導を進め、その後、実際の日常生活の場面の中で指導を進める。

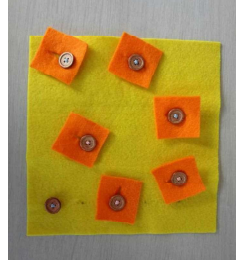
【ステップ1】 ⇒ 【ステップ2】 ⇒ 【ステップ3】



○ボタンを小さくする
 手先の細かい作業が苦手なため、遊びの要素を取り入れ、ボタンは順番に並べず、ランダムに縫いつけ、Aさんが自分の好きなどころから留められるようにした。



○ボタンに慣れる
 最初は大きいボタンをやわらかく、扱いやすいフェルトにつけ、穴にも色をつけて留めやすいようにした。



○服のボタンをとめる
 実際の服で練習をする。最初は、着ずに机に置いた状態でボタンを留めたりはずしたりした後、実際に着た状態からボタンを留める練習をした。